

障がい学生支援センターだより

誰もがいきいきと学べる大学

日頃より障がいのある学生への合理的配慮・支援について、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

緊急事態宣言の対象が全国に拡大されたことを受け、**2020年前期の授業は、面接授業（対面授業）を実施せず、原則オンラインでの授業を進めることとなりました。**

オンラインでの遠隔授業により、個人特性にあった環境や方法で受講可能となり、授業にアクセスしやすくなる学生がいる一方で、視覚情報や音声情報の取得に困難さを抱える学生（例えば、視覚障がいや聴覚障がい、発達障がいの学生等）にとっては、情報を的確に取得できず授業に付いていけないことが予想され、教育保障のための合理的配慮が必要です！

そこで、今回は、「遠隔授業における障がい学生への合理的配慮」をテーマに、教職員の皆様方にご留意・ご対応頂きたいことをまとめました。先生方の授業に障がいのある学生が受講している場合には、配慮依頼文書に記載された内容に基づいてご対応頂くとともに、今号の内容も参照してご対応・ご指導頂きたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

また、今回ご紹介する対応は、障がいの有無にかかわらず、多くの学生にとって授業にアクセスしやすい方法（ユニバーサルデザイン）でもありますので、障がい学生が受講していない場合でも、ぜひご参照下さい！

遠隔授業における障がい学生への合理的配慮について

障がいのある学生にとって、遠隔授業で抱える困難さは、例えば以下のようなものがあります。

障がい種別	障がい特性	遠隔授業における困難さ
聴覚障がい 発達障がい	<ul style="list-style-type: none"> 音声聴取が難しい 一度の口頭説明では理解が難しい 注意を向けることが難しく聞き逃すことがある等 	十分な情報保障（視覚情報、聴覚情報）がなければ、 <u>授業を理解できず、付いていけない</u>
視覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> 配付資料を読む（見る）ことができない テキストデータであれば、PCの読み上げ機能を活用し、音声情報として読むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> （リアルタイム配信やオンデマンド配信の場合）映像内の資料を読む（見る）ことができない Webclassにアップされた資料（特に画像）は見ることができない
発達障がい	<ul style="list-style-type: none"> 暗黙の了解や指示詞を理解できない 	説明箇所と資料の対応がわからなくなる
発達障がい	<ul style="list-style-type: none"> 多くの情報を一度に処理することが難しい マルチタスクが難しい 	授業ごとにWebclassを確認し、やるべきことを整理し、 <u>計画的に取り組むことが難しい</u>
精神障がい 発達障がい	<ul style="list-style-type: none"> ストレス耐性が低い、不安を感じやすい 新規場面・方法等に慣れていくことに時間がかかる（疲れやすくなる） モチベーション維持が難しい 等 	<ul style="list-style-type: none"> 授業者や周囲の反応等がわからず、自分だけが理解していないのではないかと、<u>強い不安や焦りを感じる</u> 疲れやモチベーション低下により、なかなか課題に取り組めない（そもそも活動力が低下）

※「田中真理（2020）国立情報学研究所サイバーシンポジウム資料『オンライン授業における合理的配慮について』」を参考に作成

次頁に、遠隔授業における合理的配慮の具体例を記載します。

授業方法・評価方法等を当該学生に伝え、配慮希望を改めて確認するなど、当該学生と<対話>しながらご対応頂きたくお願いいたします。ご不明な点等ございましたら、障がい学生支援センターへご相談ください。

遠隔授業における合理的配慮の具体例

聞くことに困難さがある場合（聴覚障がいや発達障がいなど）

<リアルタイム映像配信授業の場合>

- ※（特に聴覚障がい学生の場合）映像音声聞き取れるかどうか、当該学生にご確認ください。
→「十分に聞き取れない」という場合には、障がい学生支援センターへ相談するよう促してください。
- ※ 繰り返し視聴・確認できるよう録音・録画し、本人の申し出に応じて映像を提供するようにしてください。
（そういった配慮を行えることを当該学生にも伝えてください）
- ※ 質疑応答などでは、チャット機能を活用してください。

<オンデマンド配信授業の場合>

- ※ 可能であれば、話す内容を文字化し、字幕を挿入してください。あるいは、講義の説明原稿をご提供ください。

見ることに困難さがある場合（視覚障がいや発達障がいなど）

<リアルタイム映像配信・オンデマンド配信共通>

- ※（特に視覚障がい学生の場合）図や画像の内容がわからないため、何が描かれているか、何を読み取るべきか言葉で詳しく説明してください。
- ※ 色覚障害だと、色の判別（例えば、黒・赤・緑の区別がつかない）が難しいため、色使いに配慮してください。
例：強調部分は赤色で示すだけでなく、下線も引く、コントラストがはっきりとした色を使う 等
- ※ 指示詞（「ここ」）の特定ができない・難しいため、指示詞のみで説明せず、具体的に言葉で説明してください。
例：「ここは」→「スライドの上から3つめは」

<資料ベースの授業の場合（特に視覚障がい学生が受講している場合）>

- ※ 電子データをPDF化したものは、PCの音声読み上げ機能を使用して、資料を読むことができますが、画像データや手書きのものをスキャンしたデータ等は、読み上げ機能では読めません。
→ 画像等に描かれたもの、読み取ってもらいたい内容を別途テキストデータにして当該学生にご提供ください。

発達障がいや精神障がいのある学生の場合

前頁に示したように、めまぐるしく変わる状況への対応や、複数箇所にある多くの情報を処理・整理していくことが非常に苦手なため、今まさに求められている「授業ごとにWebclassを確認し、次々に出てくる課題に取り組んでいくこと」に困難さを抱えています。先生方におかれましては、以下に示すようなご配慮を賜りたく、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

- ※ Webclassに課題が出ていることにすら気づいていない場合もあります。可能な範囲で、課題が出ていることを当該学生にWebclassを通じてご連絡ください。
- ※ 課題提出がなされていない場合は、当該学生に連絡し、提出を促してください。加えて、提出期限の猶予をご配慮ください。
- ※ 当該学生に連絡をしても、返事がない場合は、障がい学生支援センターからも確認を促しますので、お手数をおかけしまして誠に恐れ入りますが、障がい学生支援センターまでご連絡ください。
- ※ そのほかにも、困っていることがあるかもしれません。障がい学生支援センターでも随時確認しておりますが、先生方からお声がけ・お尋ねいただくと相談しやすくなり、安心して取り組んでいけると思います。

障がいの有無にかかわらず、より多くの学生のために（ユニバーサルデザイン）

- ※ ゆっくりとしたスピードで、はっきりとお話してください（マスクを着用すると口形から内容が読み取れません）。
- ※ スライドを示す場合には、文字の大きさ、色使い、フォントにご配慮ください（UDフォントを推奨します）。
- ※ 説明原稿や映像の録音録画を準備し、障がい学生だけでなく、通信障害等によりリアルタイムに参加できなかった学生や留学生等への十分な教育保障ができるようご配慮ください。

障がい学生支援センター

TEL: 023-628-4922 FAX: 023-628-4485

E-mail: shougai-shien@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ホームページ URL: <http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/scsd/>

支援センター
HPのURLは、
右のコードから
読み取れます

